

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	音楽基礎B1	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	ヴォーカリストコース	開設期	通年
対象年次	1年次	科目区分	選択	時間数	30時間
単位数	2単位			授業形態	演習
教科書/教材	レジュメ・資料を配布する。				
担当教員情報					
担当教員	志鎌克彦	実務経験の有無・職種	無		
学習目的					
初回の授業で目標とする声質や音、課題のポイントを定め、最終回の授業で達成度を確認する。ヴォイストレーニングとは身体や響く声を作りあげると同時に、音感も鍛えるものである。簡単な童謡をアカペラで歌唱し、音程やリズムが外れる事の無いように歌い上げるトレーニングも行っていく。					
到達目標					
この授業では、毎日1時間の発声を行うとした場合の各自のトレーニングのルーティンを作る。自分の課題に対して足りない部分のトレーニング時間の割合、良い部分をより伸ばして行くための時間配分をどのように組み立てて実践するのか、きちんと説明しながら発表できることを到達目標とする。初回の授業で目標とする声質や音、課題のポイントを定め、最終回の授業で達成度を確認する。ヴォイストレーニングとは身体や響く声を作りあげると同時に、音感も鍛えるものである。簡単な童謡をアカペラで歌唱し、音程やリズムが外れる事の無いように歌い上げるトレーニングも行っていく。					
教育方法等					
授業概要	この授業はグループで行う。我々ヴォーカリストにとって「声」とは唯一無二の楽器であり、声を「響かせる」といったポイントに重きを置いてレッスンを行なっていく。その際に個々の音楽に対してのジャンルや個性を偏らせず、より視野を広げる事を目指す上で、他者の声をよく聞いて分析を行う事で相乗効果を促す。ボイストレーニングの一環で身体の強化、リズムトレーニング、ヴォーカリストとしてのパフォーマンス力の向上の為にダンス教育も行う。				
注意点	社会マナーとして常識的な範囲での必要以外のスマホ等の操作は厳禁とする。ヴォイストレーニングはとても繊細で緻密なトレーニングを要している為、他者が確認を行なっている際の会話や授業とは関係ない私語は一切厳禁とする。理由のない欠席は認めない。飲料を持参する（発声器官の保湿と保護及び、風邪など空気感染症の生徒間感染を予防する）。ダンスの際には運動できる服装とシューズ、タオルを持参する。授業時数の3/4を出席しないものは実技試験を受験できない。				
評価方法	種別	割合	備考		
	試験・課題	0%			
	小テスト	0%			
	レポート	40%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 (口頭・実技)	40%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
	平常点	20%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	レベルチェック	一人ずつ歌い、個々のボイストレーニングでの目標を決める。			
2回	レベルチェック	一人ずつ歌い、個々のボイストレーニングでの目標を決める。			
3回	腹式呼吸	腹式呼吸を理解し、丹田を意識することが出来る。			
4回	腹式呼吸	腹式呼吸を理解し、丹田を意識することが出来る。			
5回	リップロール	ハミング、リップロール、表情筋を習得する。			
6回	リップロール	ハミング、リップロール、表情筋を習得する。			
7回	共鳴レッスン	喉開けを理解して共鳴を習得する。			
8回	共鳴レッスン	喉開けを理解して共鳴を習得する。			
9回	エッジボイス	エッジヴォイスを習得し、共鳴との違いを理解出来る。			
10回	エッジボイス	エッジヴォイスを習得し、共鳴との違いを理解出来る。			
11回	裏声共鳴	裏声とは何かを理解し共鳴を習得する。			
12回	裏声共鳴	裏声とは何かを理解し共鳴を習得する。			
13回	裏声共鳴	裏声とは何かを理解し共鳴を習得する。			
14回	裏声共鳴	裏声とは何かを理解し共鳴を習得する。			
15回	成果発表	ここまでのトレーニングの成果を理解出来る。			